

都市デザイン工学科 カリキュラム・マトリクス [2021年度入学生対象]

ディプロマ・ポリシー

- 1) 実践力のある専門技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持続できる。〔主体的に生涯学習を継続する意欲と関心〕
  - 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけてそれらを活用できる。〔技術者に求められる文・理・情報系の素養〕
  - 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)〕
  - 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔相互に理解し議論するコミュニケーション力〕
  - 5) 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔他者との協働による課題解決力〕
  - 6) 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命観や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔社会に対し能動的に貢献する行動力〕
- ◆注：「(3)」を明確化したものが、各学科のDPとなる
- (A) 総合的な視点からの基礎学力を修得し、広い視野と確かな判断力を身につける。〔基礎学力・判断力〕
  - (B) 科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を自覚し、自己実現と自己責任の意識を持った自律できる技術者としての素養を身につける。〔技術者倫理〕
  - (C) 数学、物理学、化学、地学、生物学などの自然科学および情報の基礎的学問を身につける。〔自然科学・情報地理〕
  - (D) 都市デザイン工学科の専門領域(共通系、デザイン・計画系、構造系、コンクリート・材料系、地盤系、河川・海岸系)の内容を修得し、社会基盤の整備や都市および地球環境の保全に関する専門知識と技術を身につける。〔専門知識・技術〕
  - (E) 協調性、指導力、計画的に作業を実施する素養を養うとともに、観察力、理解力、考察力、説明能力を身につける。〔実践力〕
  - (F) 専門的な知識や技術を多角的・総合的に用いて社会が要求する問題を把握・整理し、解決するデザイン能力ならびにプレゼンテーション能力を身につける。〔問題解決・プレゼンテーション能力〕
  - (G) 社会人として基本的なコミュニケーション能力とマナーを身につける。〔コミュニケーション能力〕
  - (H) グローバル化時代に対応できる国際感覚・国際性を身につける。〔国際性〕
  - (I) 社会要請の変化に対応して、生涯学び続ける姿勢・自己学習の習慣および問題を解決する能力を身につける。〔生涯自己学習〕

◀DPを達成するために特に重要度の高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DPの達成を効果的に補助する科目には△▶

分野	分野到達目標	授業科目名	単位数	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP (A)	DP (B)	DP (C)	DP (D)	DP (E)	DP (F)	DP (G)	DP (H)	DP (I)	
キャリア形成の基礎	グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養にもとづく思考・判断力と、言語の基礎的知識を活用した円滑なコミュニケーション力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。	世界と人間	2	○	◎		△	△	△	○						○	○		
		文章表現基礎	2	○	○		◎				○						○	○	
		哲学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		倫理学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		美術史	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		文学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		日本語の歴史	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		法学(日本国憲法)	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		経済学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		歴史学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		心理学	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		日本の伝統と文化	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		国際関係論	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		日本の文化と社会Ⅰ	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		日本の文化と社会Ⅱ	2	○	◎		△	△	△	○							○	○	
		ベーシック・イングリッシュa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		ベーシック・イングリッシュb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		オーラル・コミュニケーションⅠa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		オーラル・コミュニケーションⅠb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		オーラル・コミュニケーションⅡa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		オーラル・コミュニケーションⅡb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		工学コミュニケーション英語基礎a	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		工学コミュニケーション英語基礎b	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		キャリア・イングリッシュⅠa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		キャリア・イングリッシュⅠb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		キャリア・イングリッシュⅡa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		キャリア・イングリッシュⅡb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		英語プレゼンテーションa	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		英語プレゼンテーションb	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		中国語コミュニケーション	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		中国語と現代中国事情	1	△	○		◎			○	○						○	◎	
		海外語学研修	2	△	○		◎			○	○						○	◎	
		日本語Ⅰ	2	△	○		◎			○	○						○	◎	
日本語Ⅱ	2	△	○		◎			○	○						○	◎			
健康体育Ⅰ	1	△	○		◎			○	△	◎					◎				
健康体育Ⅱ	1	△	○		◎			○	△	◎					◎				
生涯スポーツⅠ	1	△	○		◎			○	△	◎					◎				
生涯スポーツⅡ	1	△	○		◎			○	△	◎					◎				



領域	分野到達目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP 6)	DP (A)	DP (B)	DP (C)	DP (D)	DP (E)	DP (F)	DP (G)	DP (H)	DP (I)
共通領域	社会基盤構造物（以下、インフラと略記）を計画、設計、施工ならびに維持管理する上で必要な基本事項を説明できる。	都市デザイン工学入門	2			◎							◎					
		都市デザイン工学演習Ⅰ	●2			◎		◎						◎	◎			
		都市デザイン工学演習Ⅱ	●2			◎		◎						◎	◎			
		プロジェクト演習	●1			◎	◎	◎						◎	◎	◎		
		測量学	●2			◎								◎				
		測量学実習	●2			◎								◎				
		応用測量学	2			◎								◎				
		応用測量学実習	2			◎								◎				
		基礎製図	2			◎								◎				
		土木情報学	2			◎								◎				
		CAD/CG演習	■1		◎	◎							◎	◎				
		上下水道システム工学	2			◎								◎				
		建設行政	2			◎								◎				
		技術者倫理	●2							◎		◎						
		特別講義Ⅰ	2			◎				◎		◎		◎				
		特別講義Ⅱ	2							◎	◎		◎			◎		
		建築・都市設計演習	2			◎								◎				
防災・減災工学	2			◎								◎						
デザイン・計画領域	社会基盤と都市空間を、創造、改善、活用、保全、保護するための理論と分析・デザインする手法を用いて、実際の事例を説明できる。将来の都市や地域、地区の計画・設計に必要な考え方・手法を説明できる。	景観工学	●2			◎							◎	◎				
		景観工学演習	■1		◎	◎							◎	◎				
		空間情報学	2			◎								◎				
		空間デザイン学	2			◎								◎				
		計画学 a	●2			◎								◎				
		計画学 a 演習	■1		◎	◎								◎			◎	
		計画学 b	2			◎								◎				
		社会資本計画学	2			◎								◎				
		交通計画学	2			◎								◎				
		都市・地域計画	2			◎								◎				
構造領域	反力、断面力、変形などの構造力学で学ぶ内容を習得し、橋梁を代表とする構造物の設計、施工ならびに維持管理の手法が説明できる。	構造力学 a	●2			◎							◎					
		構造力学 a 演習	■1		◎	◎							◎				◎	
		構造力学 b	●2			◎								◎				
		構造力学 b 演習	■1		◎	◎								◎				
		構造力学 c	2			◎								◎				
		構造力学 c 演習	■1		◎	◎								◎				
		橋梁工学	2			◎								◎				
コンクリート・材料領域	代表的な建設材料であるコンクリートや鉄筋の力学特性が説明でき、コンクリート構造物(RC、PC)の設計と照査、施工ならびに維持管理の手法が説明できる。	建設材料学	●2			◎							◎					
		鉄筋コンクリート工学	2			◎							◎					
		鉄筋コンクリート工学演習	■1		◎	◎							◎				◎	
		コンクリート構造学	2			◎								◎				
		プレレストコンクリート工学	2			◎								◎				
		応用コンクリート工学	2			◎								◎				
地盤領域	地盤の力学特性が説明でき、インフラの基礎となる地盤の改良手法や、豪雨・地震などの自然災害からインフラを守る手法（防災・減災対策）が説明できる。	土質力学 a	●2			◎							◎					
		土質力学 a 演習	■1		◎	◎							◎				◎	
		土質力学 b	●2			◎								◎				
		土質力学 b 演習	■1		◎	◎								◎				
		地盤防災工学	2			◎								◎				
		地盤施工学	2		◎	◎								◎				
河川・海岸領域	水の流れの特性が説明でき、洪水や津波、高潮からインフラを守る手法が説明できる。	道路工学	2			◎							◎					
		水理学 a	●2			◎							◎					
		水理学 a 演習	■1		◎	◎							◎				◎	
		水理学 b	●2			◎								◎				
		水理学 b 演習	■1		◎	◎								◎				
		河川工学	2			◎								◎				
		水系保全学	2			◎								◎				
卒業研究	卒業研究	海岸工学	2			◎							◎					
		卒業研究	(4)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

(注) ●：必修科目、■：選択必修科目、単位数の前に※を付した授業科目は卒業に必要な単位数に含めない科目

(※) 本学では、卒業研究に単位は設定しておらず、卒業要件として、その合格を課している。ただし、卒業研究がDP達成に果たす役割は大きく、DSシステム上のDP達成度算出の対象とするため、カリキュラム・マトリクス上では卒業研究を4単位と仮定している。